



株式会社翻訳センター [証券コード:2483]

個人投資家向けIRセミナー 会社説明資料

2026年3月24日

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

代表取締役社長の二宮 俊一郎です。
本日は当社の会社説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

Table
of
Contents

- 会社概要
- 成長戦略
- 業績動向
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

本日は、当社の会社概要、成長戦略、足元の業績動向、そして成長イメージと株主還元についてご説明します。

Section 1

- 会社概要
- 成長戦略
- 業績動向
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

まず初めに、会社概要についてご説明します。

企業理念

産業技術翻訳を通して、国内・外資企業の国際活動をサポートし、
国際的な経済・文化交流に貢献する企業を目指す

経営ビジョン

すべての企業を世界につなぐ 言葉のコンシェルジュ

人と人とのコミュニケーションになくてはならないのが「言葉」です。国や言語が違っても「言葉」は世界の人々が理解し合うための重要なツールです。翻訳センターは、「言葉」でお客様を世界につなぎます。

| | | | |
|-------|---|------|---|
| 会社名 | 株式会社 翻訳センター | 関係会社 | 株式会社アイ・エス・エス 株式会社メディア総合研究所 株式会社バナシア 株式会社福山産業翻訳センター シトラスジャパン株式会社 ランゲージワン株式会社(持分法適用会社) |
| 本社所在地 | 大阪本社:大阪府大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 東京本社:東京都港区赤坂1丁目12番地32号 | 事業内容 | 翻訳事業、通訳事業、派遣事業、 コンベンション事業、通訳者・翻訳者養成、 外国特許出願支援、メディカルライティング、 日本語・多言語Webサイト制作、 多言語コールセンター |
| 代表者 | 二宮 俊一郎 | | |
| 設立 | 1986年4月 | | |
| 資本金 | 5億8,844万円(2025年3月末現在) | | |
| 従業員数 | 545人(2025年3月末現在) *連結 | | |
| 事業所 | 大阪、東京、名古屋 | | |

当社は、企業理念として「産業技術翻訳を通して、国内・外資企業の国際活動をサポートし、国際的な経済・文化交流に貢献する企業を目指す」、経営ビジョンとして「すべての企業を世界につなぐ 言葉のコンシェルジュ」を掲げています。

これらを一言で申し上げると、お客様の国際的な活動を、言語面から支援することが当社の使命だと捉えています。

事業概要

翻訳事業

専門分野に特化した
技術・ビジネス文書の翻訳
メディカルライティング



派遣事業

顧客企業への通訳者・翻訳者
の派遣



通訳事業

会議、商談、視察・査察等の
ビジネス通訳



その他

通訳者・翻訳者の養成
外国への特許出願支援
日本語・多言語Webサイト制作



*1 2025年3月期実績

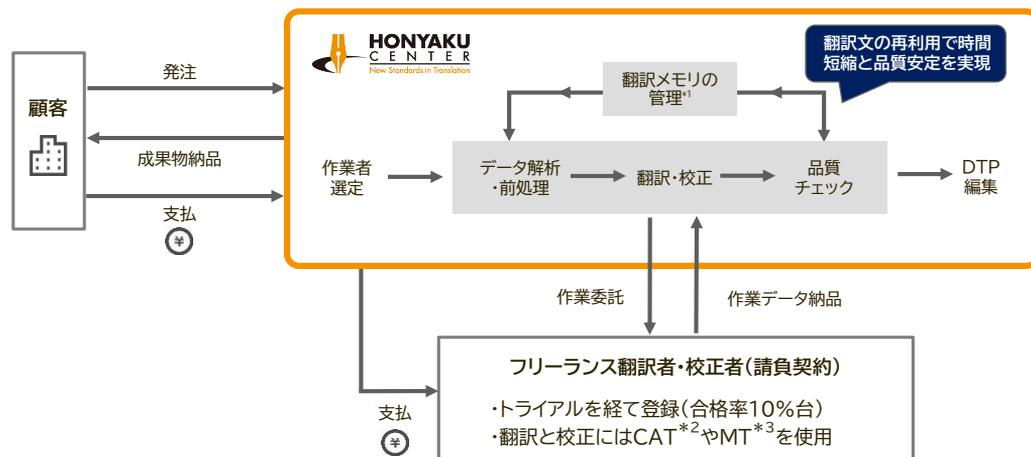
*2 コンベンション事業は2025年3月期より「その他」の事業に含めて報告する方法に変更

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 5

当社のコア事業は翻訳事業で、連結売上高の約75%を占めています。このほか、派遣事業と通訳事業を展開しており、それぞれ連結売上高の約10%を構成しています。

また、その他の事業として、通訳者の養成や特許の出願支援サービスも手がけています。このうち、特許出願支援サービスについては、後ほどご説明します。

ビジネスモデル



*1 翻訳メモリ: (Translation Memory)とは過去に翻訳した文章を原文と訳文のペアでデータベース化したものであり、略して「TM」とも言う。

*2 CAT: 翻訳支援ツール(Computer-Assisted Translation | 翻訳者や校正者の作業を支援し、作業効率向上に導くソフトウェア)の略語

*3 MT: 機械翻訳(machine translation | 人を介さず機械が行なう翻訳)の略語

翻訳事業のビジネスモデルについてご説明します。

当社では、お客様からお預かりした原稿をもとに翻訳を行っていますが、実際の翻訳作業はフリーランスの翻訳者が担当しています。

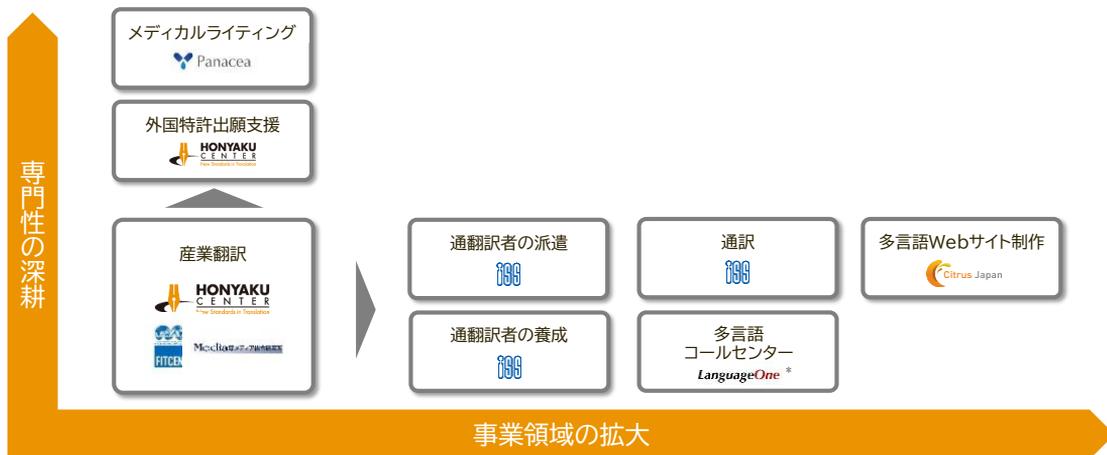
当社が取り扱う言語数や専門分野は非常に多岐にわたっており、すべての分野・言語をカバーする翻訳者をインハウスで抱えることは現実的ではありません。そのため、専門性を有するフリーランス翻訳者の方々にご協力いただく体制を採っています。

一方で、社内では、エージェントとして重要な役割を担っています。案件ごとに適切な翻訳者を選定するほか、過去の翻訳データを分析し、原稿の内容と類似する表現がどの程度あるかを解析しています。また、原稿データをシステム上で翻訳しやすい形式に加工することで、翻訳者が効率的に作業できる環境を整えています。

翻訳作業が完了した後は、社内で訳文チェックを行い、品質の確保に努めています。

外国語サービスの総合サプライヤー

産業翻訳を軸に成長しながら、通訳・派遣やメディカルライティング、出願支援等の周辺事業にも進出。外国語サービスの総合サプライヤーとして企業の国際活動を幅広く支援



* 持分法適用会社

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 7

当社は、「外国語の総合サプライヤー」を目指して事業を展開しています。こちらのスライドは、その考え方を概念図として示したものです。

縦軸は、専門性の深耕を表しています。

当社は設立から今年で40年を迎えますが、創業以来一貫して、技術的専門分野の追求を基本方針としてきました。翻訳事業においては、とりわけ特許分野と医薬分野に高い専門性を有しており、これが当社の大きな強みとなっています。

こうした専門性をさらに伸ばしていく取り組みとして、外国特許出願支援サービスや、医薬分野におけるメディカルライティング(データを基に新薬申請資料を作成する業務)なども展開しています。

単に翻訳を提供するのではなく、高度な専門性を前提としたサービスを提供している点が、当社の競争力の源泉だと考えています。

一方、横軸は、翻訳事業の隣接領域として展開しているサービスを示しています。

通訳者の派遣や通訳は、グループ会社であるアイ・エス・エスが提供しています。同社は当社が買収した会社で、50年以上の歴史を持つ企業です。

多言語コールセンター事業は、一言で申し上げると、多言語で行う電話通訳です。コールセンター運営に強みを持つパートナー企業と合併会社を設立して展開しています。

また、多言語Webサイト制作については、先日グループ化したシトラスジャパンがサービスを提供しています。

このように、外国語に関わる周辺サービスについては、M&Aを活用しながら事業領域を拡大し、専門性の深化とサービスの広がりを両立させていく戦略を取っています。



顧客ポートフォリオ



テクノロジーの活用

次に、当社グループの特長である、顧客ポートフォリオとテクノロジーの活用についてご説明します。

顧客ポートフォリオ

顧客数^{*1} 3,300社

年間受注件数^{*1} 49,200件

医薬品・医療 

- ・医薬品
- ・CRO
- ・医療機器
- ・大学、病院

[取引実績]^{*2}
世界売上高
100億ドル超
25社の96%

特許 

- ・特許事務所
- ・企業知財部
- ・特許調査会社

[取引実績]^{*3}
出願件数上位
100事務所の
約70%

製造業 

- ・自動車
- ・機械
- ・電機、電子
- ・エネルギー

非製造業 

- ・情報、通信
- ・サービス
- ・インフラ

金融・保険・法律 

- ・証券、銀行
- ・損保、生保
- ・法律事務所

官公庁・公社 

- ・官公庁
- ・独立行政法人
- ・公益法人

*1 2025年3月31日時点

*2 2024年12月期(一部の日本企業は2025年3月期、豪CSLは2024年6月期)の世界売上高が100億ドルを超える企業25社をランキングして算出

*3 知財ラボ「2023年特許事務所ランキング(<https://jp-ip.com/ranking-list/index/2/1>)」をもとに算出

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 9

当社グループの特長として、顧客ポートフォリオの分散が挙げられます。

年間でお取引のあるお客様は約3,300社、受注件数は約5万件弱です。案件の平均単価は10万円で、1万円程度の小型案件から、数千万円規模の大型案件まで、幅広く取り扱っています。

業種別では、医薬品分野が最も多く、製薬会社やCRO、医療機器メーカー、特にメガファーマとのお取引が中心です。新薬申請関連資料の翻訳ニーズが高いのが特徴です。

特許分野では、特許明細書の翻訳が中心で、日本から海外への出願、海外から日本への出願の双方を支援しています。

製造業では自動車関連、特に自動車部品メーカーが多く、非製造業ではIT系のお客様が中心です。

金融分野ではIR関連資料の翻訳ニーズが高まっており、当社でも多くの翻訳を支援しています。

官庁向けの案件もありますが、入札案件が多く価格競争が厳しいため、全体に占める比率は低めです。



次に、当社におけるテクノロジーの活用についてご説明します。

主に翻訳現場で活用しているのが、CAT(翻訳支援ツール)とMT(機械翻訳)です。

MTは、いわゆる機械翻訳を指しますが、当社ではこれを最終成果物として使用するのではなく、翻訳作業の下訳として活用しています。

また、CATは、翻訳者が翻訳作業を行う際に使用するプラットフォームで、過去の翻訳データを蓄積・参照しながら作業を進めることができるツールです。

当社では、このCATとMTを組み合わせることで、翻訳品質を維持・向上させながら、作業効率の改善を図っています。

次のスライドでは、実際のCAT画面のスクリーンショットを用いて、当社がどのようにCATとMTを使い分けているのか、具体的にご説明します。

テクノロジーの積極活用

黄色:用語集(TB)に訳語があることを指す

緑色:ページ色:翻訳メモリ(TM)、数字は一致率。100%重複の場合はそのまま再利用できる

赤色:禁止用語。今回の翻訳で使用してはいけない用語を指す(誤訳の防止)

**水色:機械翻訳(MT)による訳文
重複率が低い文章はMTが新たに翻訳。翻訳者が訳出結果から最終的な訳文を決定する**



テクノロジーの積極活用により、作業時間を大幅に短縮

* 機械翻訳(MT)で生成された訳文を、プロの翻訳者が修正・編集(Post-Editing)して品質を高める翻訳手法

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 11

こちらは、当社で使用しているCAT画面のスクリーンショットです。

「MTを使う」と聞くと、翻訳用のウィンドウにファイルをアップロードするだけで、翻訳文が上書きされたファイルが自動的に出力される、といったイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが。

しかし、当社では、そのような仕組みは採用していません。当社では、CATとMTを組み合わせることで、翻訳の品質と効率の両立を図っています。

画面上でご覧いただける緑色の部分の「100」という数字は、過去案件の原文と、現在進行中の案件の原文が100%一致していることを示しています。この場合は、データベースに蓄積された過去案件の翻訳文をそのまま使用します。

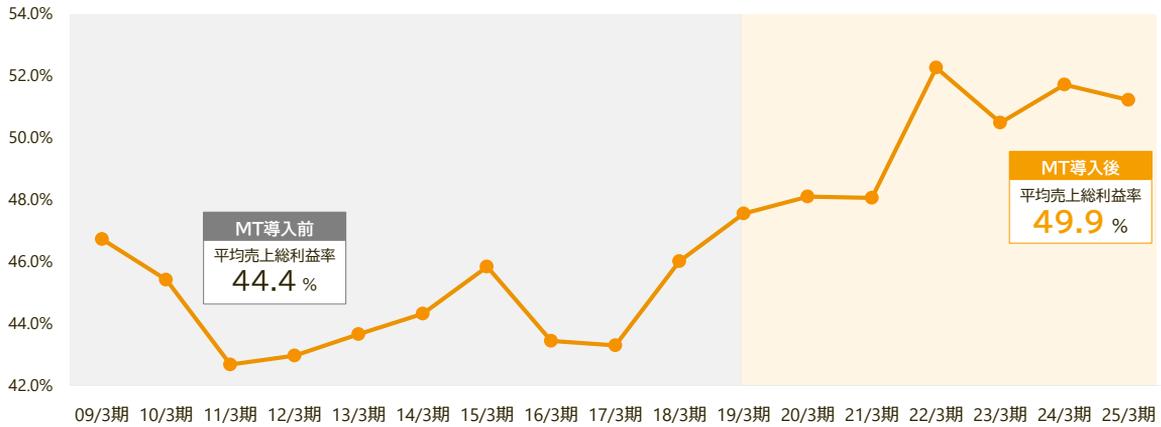
その下にある「91」という数字は、過去案件の原文と91%一致していることを示しています。この場合も、過去案件の翻訳文を参照しながら、異なる部分のみを翻訳者が翻訳します。その方が作業効率が高いためです。

一方で、過去の翻訳データとの一致率が75%を下回るケースでは、MTの出力文を下訳として使用します。画面右端の「MT」と表示されている部分が、その参照訳です。ただし、このMTの出力文をそのまま使うことはほとんどなく、必ず翻訳者が原文を確認しながら修正を加えていきます。

このように、当社では、過去の翻訳データとMTを使い分けながら、最終的には人の判断を介在させて翻訳作業を進めています。

機械翻訳(MT)を下訳として活用することで、翻訳センター(単体)の売上総利益率が向上

翻訳センター(単体)の売上総利益率



こちらのスライドは、翻訳作業のIT化による効果を示したグラフです。グラフのうち、ベージュ色で示している部分が、MT導入後の実績です。

ご覧の通り、MTやCATといったテクノロジーを活用することで、翻訳作業の効率が段階的に向上しており、それに伴い粗利率も徐々に改善してきています。

Section 2

- 会社概要
- **成長戦略**
- 業績動向
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

次に、成長戦略について、ご説明します。

国内の翻訳・通訳市場
(2024年度) *1

2,905 億

当社の
市場シェア *2

3.8 %

*1 「語学ビジネス市場の実態と展望」(矢野経済研究所)

*2 当社2025年3月期連結売上高(112億1,014万)を2024年度の翻訳・通訳市場規模(2,905億)で除して算出

国内の翻訳市場規模は、約3,000億円弱といわれています。
当社は日本の翻訳会社の中では最大手と位置づけられることが多いのですが、それでも国内市場における当社のシェアは4%弱にとどまっています。

見方を変えると、これは国内市場の大半が、まだ当社以外のプレイヤーによって担われているということでもあります。つまり、国内市場だけを見ても、シェアを高めていく余地は十分にあると考えていますし、当社としても、成長を継続していくために、いま取り組まなければならない局面に来ていると認識しています。

第6次中期経営計画 概要

■ 基本方針

New Standards in Translation

翻訳センターグループは、専門分野に精通した翻訳者・通訳者と日々蓄積される豊富な言語資産の活用を通じて、デジタル時代に対応した言語サービスを提供することで、顧客から最も信頼される言語サービスのパートナーになることを目指します。

■ 重点施策

- AI・データの活用による事業競争力の強化
- 業務効率化の推進
- 安定した収益基盤の確立

■ 連結業績目標(2028年3月期計画)



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 15

現在進行中の中期経営計画では、2028年3月期に売上高130億円、営業利益12億円、当期純利益8億円、ROE10%以上を目標としています。



専門文書における競争優位性を確立

中期経営計画における基本戦略についてご説明します。

大きな柱となるのは、これまでご説明してきたIT活用のさらなる推進です。なかでも、中心戦略として位置づけているのが、「MT・LLMの活用によるQCDの改善」です。

まず、QCDのうち「C(コスト)」については、CATやMTの活用による翻訳作業の効率化を進めてきた結果、足元ではコスト構造の改善が一定程度進んでいます。

今後については、単に粗利率を引き上げることだけを目的とするのではなく、競争力を高めるための価格戦略を柔軟に取れる体制を整えていくことが重要だと考えています。市場環境や案件特性によっては、価格競争力を前面に出す局面も想定されるため、コスト低減の成果を機動的な価格戦略に反映させていきたいと考えています。

次に「Q(品質)」と「D(納期)」についてです。

翻訳プロセスの効率化が進んだことで、翻訳作業そのものにかかる時間が短縮され、納期の短縮や対応力の向上が可能になってきています。これは、お客様にとっての利便性向上に直結するものであり、サービス品質の強化につながっています。

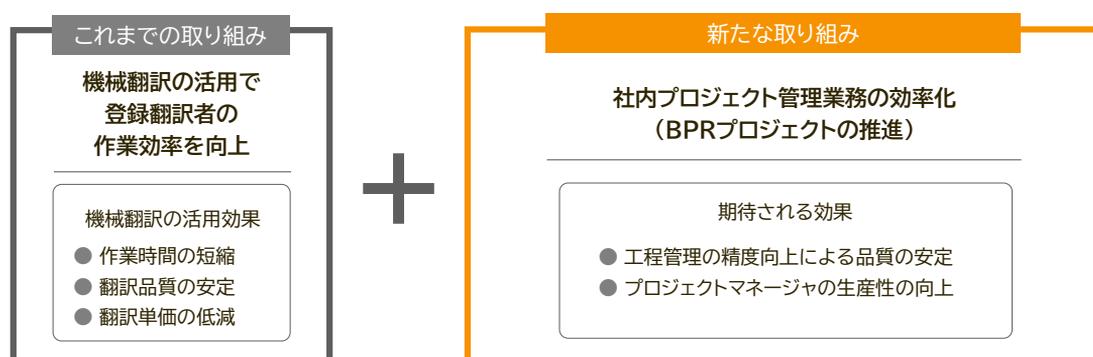
このように、QCD全体を改善することで、顧客満足度を高めつつ、国内市場におけるシェア拡大を目指すことが、基本戦略の一つです。

もう一つの重要な施策が、「データドリブンによる営業・マーケティングの強化」です。当社は非常に多くのお客様、そして多くの案件を抱えていますが、これまで必ずしも、そのデータを十分に活用できていたとは言えません。この点については、当社自身の反省も込めて、あえて中期経営計画のテーマとして掲げています。今後はデータを活用することで、お客様の状況に即した、より適切な提案ができる体制を構築していきたいと考えています。

これら二つの施策を両輪として進めることで、専門文書における競争優位性の確立を目指していきます。

業務効率化の推進

社内プロジェクト管理業務の効率化を推し進め、利益率の維持・向上を図る



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 17

業務効率化に関する戦略についてご説明します。

これまでご説明してきた取り組みは、主に翻訳作業そのものの効率化であり、スライド上では灰色の枠で示している部分に該当します。CATやMTといったITツールの活用によって、翻訳プロセスの生産性向上は着実に進んできました。

一方で、今後さらに取り組むべき重要なテーマが、スライド右側のオレンジ色で示している「BPR(業務プロセス改革)」だと考えています。

当社は翻訳エージェントとして、案件を数多く扱っている点が特徴です。その結果、非常に多くのプロジェクトが並行して進行しています。

こうした事業特性上、案件・進行管理、請求処理など、翻訳作業以外の周辺業務が占める比重も大きくなっています。

これまで、翻訳現場の効率化に比べると、こうした周辺業務におけるIT活用や業務プロセスの見直しは、十分とは言えない部分があったと認識しています。

そのため、中期経営計画の期間を通じて、業務フロー全体を見直し、プロジェクト管理や社内オペレーションの効率化を本格的に進めていく方針です。

資本効率を重視したグループ事業ポートフォリオの最適化

競争力の高い事業への
選択と集中

利益管理手法の
改善・強化



資本効率の向上と
成長期待の醸成

成長領域に対する投資

翻訳事業のシェア拡大

新しい成長事業の獲得



将来の収益源の育成

次に、事業ポートフォリオの改善についてご説明します。

当社グループでは、翻訳事業を中核としつつ、複数のグループ会社を通じて、翻訳以外の周辺事業も展開しています。今後は、こうしたグループ全体を俯瞰した視点に立ち、事業ポートフォリオの最適化を進めていく必要があると考えています。

具体的には、グループ会社の管理効率を高めつつ、成長性や収益性の高い事業に重点的に経営資源を投下していく方針です。

一方で、今後の成長領域への投資については、M&Aを中心としたアプローチを取っていきます。当社がこれまで培ってきた専門性や顧客基盤とシナジーの見込める分野については、M&Aを活用することで、成長スピードを高めていきたいと考えています。

足元の取り組み

✓ 株式会社FIPASの吸収合併(2025年10月)

事業内容

- 外国への特許出願代行
- 出願国実績:約30か国(2024年度)

今後の展望

- 当社特許本部内にFIPASグループを設置
 - 特許本部の顧客に翻訳と外国出願のワンストップサービスを訴求
- ※ 吸収合併後も連結決算の報告セグメントに変更はありません。

✓ シトラスジャパン株式会社の全株式を取得(グループ会社化)(2025年10月)

事業内容

- 多言語Webサイトの企画制作
- 訪日外国人向けプロモーションや多言語対応に強み

今後の展望

- 多言語Webサイト制作の知見を活かし、翻訳サービスを拡充
 - 当社による経営支援を通じ、同社の収益回復を目指す
- ※ 同社の業績は、2026年3月期第3四半期連結決算より「その他」に組み入れています。

こうした考え方を踏まえ、足元での取り組みをご説明します。

まず一つ目は、外国特許出願支援サービスを展開するグループ会社、FIPAS(フィパス)の吸収合併です。同社は、高度な専門性を確立する目的で、これまで別会社として事業を行ってきました。

近年、企業の知財部のお客様からは、翻訳と外国特許出願支援を一体で提供してほしいというニーズが高まっています。こうしたご要望にお応えするため、サービス提供体制を一本化しました。管理コストの削減という側面もありますが、それ以上に、お客様へのサービス向上を重視した取り組みです。

もう一つの施策が、シトラスジャパンのグループ化です。

同社は、多言語Webサイト制作に強みを持つ会社であり、制作ノウハウを有しています。当社としては、翻訳にとどまらず、制作まで含めた提案ができる体制を構築することで、事業領域の拡大を図ることを目的に、同社を買収しました。

以上が、中期経営計画における重点施策の概要です。

これらの取り組みを着実に進めながら、中期経営計画で掲げている数量的目標の達成に向けて尽力していきます。

Section 3

- 会社概要
- 成長戦略
- **業績動向**
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

次に、業績動向についてご説明します。



2026年3月期第3四半期累計では、売上高81億100万円(前年同期比2.3%減)、営業利益5億1,300万円(同10.0%減)、経常利益5億4,200万円(同6.5%減)、四半期純利益3億4,500万円(同17.5%減)となりました。

減収減益の主な要因は、米国の関税政策の影響によるクロスボーダー取引の減少に伴い、翻訳ニーズが縮小したことにあります。

2026年3月期第3四半期 業績

(百万円)

| | 2025年3月期 3Q実績 | 2026年3月期 3Q実績 | 増減 | 増減率 |
|------------------|------------------|------------------|-------|--------|
| 売上高 | 8,298 | 8,101 | △196 | △2.3% |
| 翻訳事業 | 6,207 | 5,984 | △222 | △3.5% |
| 特許分野 | 2,207 | 2,243 | 36 | 1.6% |
| 医薬分野 | 1,904 | 1,976 | 71 | 3.7% |
| 工業・ローカライゼーション分野 | 1,614 | 1,355 | △259 | △16.0% |
| 金融・法務分野 | 480 | 409 | △71 | △14.8% |
| 派遣事業 | 895 | 848 | △47 | △5.3% |
| 通訳事業 | 935 | 1,020 | 85 | 9.1% |
| その他 | 260 | 249 | △11 | △4.5% |
| 売上原価 | 4,376 | 4,241 | △135 | △3.0% |
| 売上総利益 | 3,921 | 3,860 | △61 | △1.5% |
| 売上総利益率 | 47.2% | 47.6% | 0.4pt | — |
| 販売管理費 | 3,351 | 3,347 | △4 | △0.1% |
| 営業利益 | 570 | 513 | △57 | △10.0% |
| 経常利益 | 580 | 542 | △37 | △6.5% |
| 特別利益 | 37 | — | △37 | — |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 418 | 345 | △73 | △17.5% |

*その他は、コンベンション事業、語学教育事業、外国特許出願支援事業等で構成

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 22

第3四半期累計の業績を事業別にご説明します。

翻訳事業全体では、前年同期比で3.5%の減収となりました。一方で、特許分野と医薬分野は増収を維持しています。

特許分野では、お客様の出願数の見直しや削減の影響を受ける局面もありましたが、前年同期比1.6%の増収となりました。医薬分野も、前年同期比3.7%の増収となっています。

一方、自動車メーカーを主な顧客とする工業・ローカライゼーション分野では、前年同期比16.0%の減収となりました。

また、金融・法務分野も減収となっています。この分野では、一般事業会社の管理系部門とのお取引が多いのですが、マーケティング資料や契約書など、クロスボーダー取引に付随する資料の受注が減少しました。なお、IR関連文書単独で見ると前年同期比で増収となっていますが、それ以外の減収影響が大きく、分野全体では減収となっています。

派遣事業は減収となりましたが、通訳事業は引き続き増収基調です。コロナ禍からの回復に加え、大阪・関西万博などを背景に、ビジネスおよび観光目的での訪日外国人が増加しており、通訳ニーズも高まっています。当社としても、その需要を取り込むことで、増収を維持できている状況です。

2026年3月期予想

(百万円)

| | 2025年3月期 実績 | 2026年3月期 予想 | 増減 | 増減率 |
|-----------------|----------------|----------------|-------|--------|
| 売上高 | 11,210 | 11,400 | 189 | 1.6% |
| 翻訳事業 | 8,507 | 8,650 | 142 | 1.6% |
| 特許分野 | 2,911 | 3,000 | 88 | 3.0% |
| 医薬分野 | 2,694 | 2,840 | 145 | 5.3% |
| 工業・ローライゼーション分野 | 2,280 | 2,140 | △140 | △6.1% |
| 金融・法務分野 | 619 | 670 | 50 | 8.0% |
| 派遣事業 | 1,175 | 1,180 | 4 | 0.3% |
| 通訳事業 | 1,187 | 1,250 | 62 | 5.3% |
| その他 | 340 | 320 | △20 | △5.9% |
| 売上原価 | 5,895 | 6,050 | 154 | 2.6% |
| 売上総利益 | 5,314 | 5,450 | 135 | 2.5% |
| 売上総利益率 | 47.4% | 47.8% | 0.4pt | — |
| 販売管理費 | 4,424 | 4,550 | 125 | 2.8% |
| 営業利益 | 890 | 900 | 9 | 1.0% |
| 経常利益 | 905 | 920 | 14 | 1.5% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 723 | 630 | △93 | △12.9% |

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 23

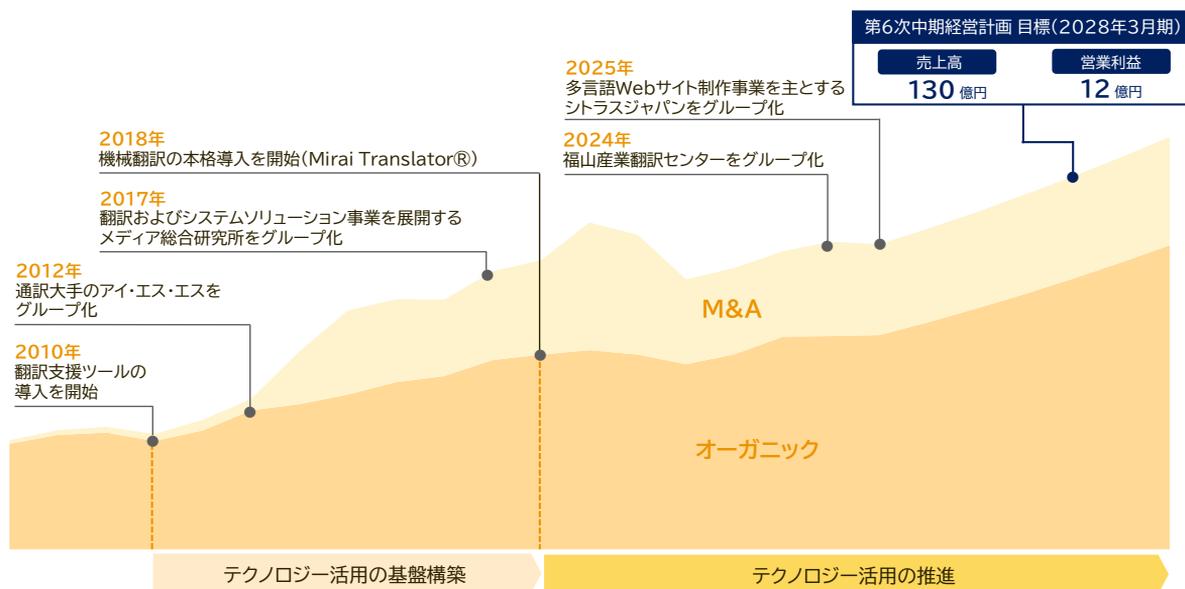
2026年3月期の通期業績予想については、期初に公表した予想から変更はありません。

Section 4

- 会社概要
- 成長戦略
- 業績動向
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

最後に、成長イメージと株主還元についてご説明します。

成長イメージ



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 25

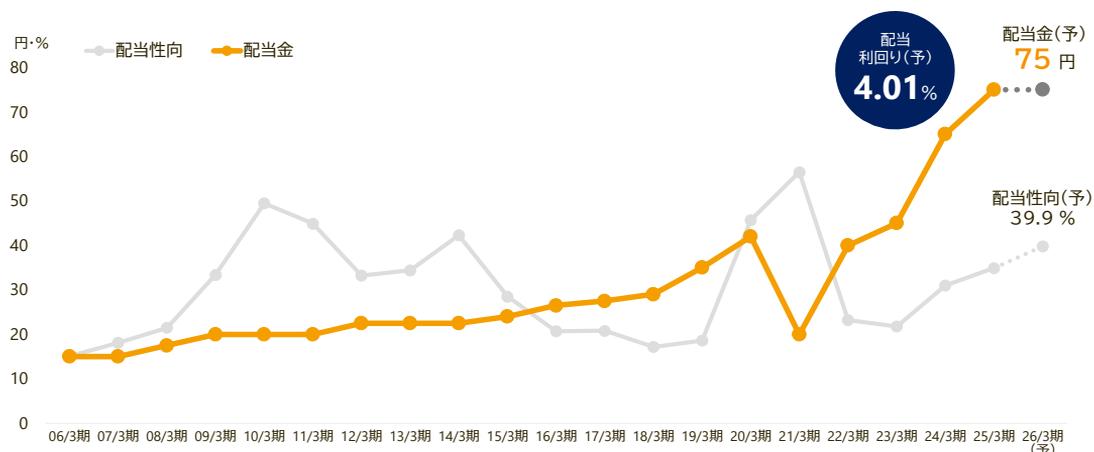
今後の成長イメージについてご説明します。

当社は、引き続きオーガニック成長を基本とした事業拡大を成長の軸に据えています。翻訳事業を中心とした既存事業については、これまでご説明してきたCATやMT、さらにLLMの活用など、ITを積極的に取り入れることで、生産性を高めながら増収増益を目指していきます。

一方で、既存事業の延長線上にない新たな領域については、M&Aを積極的に活用していく方針です。自社単独で時間をかけて立ち上げるのではなく、専門性やノウハウを有する企業と一体となることで、事業領域を拡大していきたいと考えています。

株主還元

2024年3月に配当方針を変更し、配当性向の目標を35%に制定。26/3期の配当は前期を据え置き、75円/株を予想(配当性向39.9%)



*1 2026年3月19日終値1,869円を基に当社にて算出

*2 2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施しております。上記グラフでは当該株式分割に伴う影響を加味し、適及修正を行った場合の1株当たりの指標の推移を記載しています。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved. 26

最後に、株主還元についてご説明します。

当社は、株主の皆さまへの還元を重要な経営テーマの一つと位置づけており、配当性向35%を目標として定めています。

この方針のもと、業績や財務状況を踏まえながら、安定的かつ継続的な配当の実施を目指しています。

今期につきましては、1株当たり75円の配当を予定しており、配当性向は39.9%となる見込みです。

今後も株主還元を重視しながら、経営を進めていきたいと考えています。

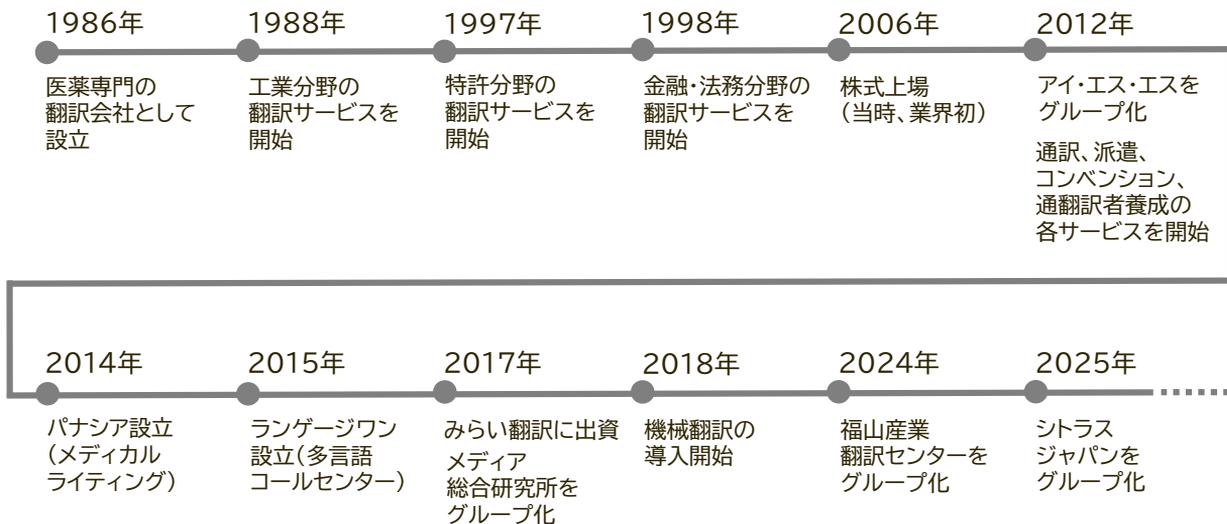
引き続き、皆さまからのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

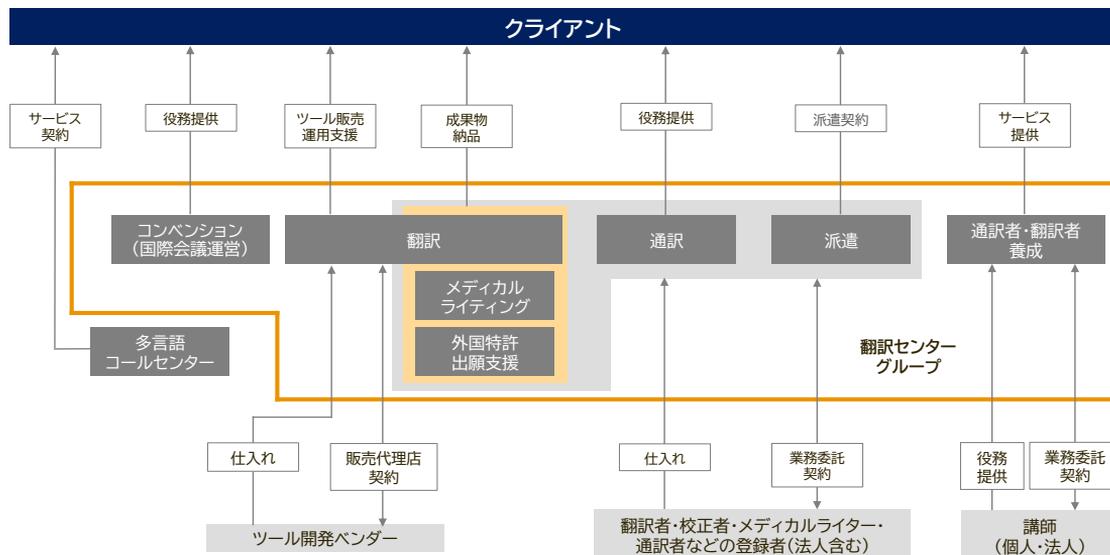
Section 5

- 会社概要
- 成長戦略
- 業績動向
- 成長イメージ・株主還元
- Appendix

沿革



事業系統図



各種指標推移

(百万円)

| | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 | 2025/3期 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 売上高 | 11,550 | 9,910 | 10,337 | 10,947 | 11,303 | 11,210 |
| 経常利益 | 822 | 465 | 841 | 960 | 938 | 905 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 304 | 117 | 573 | 686 | 711 | 723 |
| 資本金 | 588 | 588 | 588 | 588 | 588 | 588 |
| 発行済株式総数(株) | 3,369,000 | 3,369,000 | 3,369,000 | 3,369,000 | 3,369,000 | 3,369,000 |
| 純資産額 | 4,545 | 4,524 | 5,090 | 5,672 | 6,250 | 6,760 |
| 総資産額 | 6,222 | 6,295 | 7,172 | 7,486 | 8,326 | 8,836 |
| 自己資本比率(%) | 73.0 | 71.8 | 70.9 | 75.7 | 75.0 | 76.5 |
| 売上高経常利益率(%) | 7.0 | 4.7 | 8.1 | 8.7 | 8.2 | 8.0 |
| 連結従業員数(人) | 522 | 509 | 520 | 521 | 562 | 545 |
| 登録者数(人) | 3,030 | 3,249 | 2,681 | 2,815 | 2,866 | 2,911 |

* 翻訳センター単体

(百万円)

| | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 | 2025/3期 |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 売上高 | 11,550 | 9,910 | 10,337 | 10,947 | 11,303 | 11,210 |
| 翻訳事業 | 8,112 | 7,520 | 7,828 | 8,457 | 8,458 | 8,507 |
| 特許分野 | 2,258 | 2,100 | 2,316 | 2,708 | 2,902 | 2,911 |
| 医薬分野 | 2,749 | 2,875 | 2,904 | 2,796 | 2,605 | 2,694 |
| 工業・ローカライゼーション分野 | 2,472 | 2,038 | 2,028 | 2,376 | 2,368 | 2,280 |
| 金融・法務分野 | 632 | 505 | 580 | 575 | 582 | 619 |
| 派遣事業 | 1,200 | 1,228 | 1,212 | 1,119 | 1,174 | 1,175 |
| 通訳事業 | 1,022 | 477 | 655 | 854 | 1,095 | 1,187 |
| その他 | 432 | 385 | 420 | 365 | 342 | 340 |
| コンベンション事業 | 782 | 298 | 220 | 152 | 233 | |
| 売上原価 | 6,625 | 5,536 | 5,429 | 5,860 | 5,990 | 5,895 |
| 売上総利益 | 4,925 | 4,373 | 4,907 | 5,087 | 5,313 | 5,314 |
| 売上総利益率 | 42.6% | 44.1% | 47.4% | 46.4% | 47.0% | 47.4% |
| 販売管理費 | 4,111 | 3,955 | 4,096 | 4,159 | 4,410 | 4,424 |
| 営業利益 | 813 | 418 | 811 | 928 | 902 | 890 |
| 経常利益 | 822 | 465 | 841 | 960 | 938 | 905 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 304 | 117 | 573 | 686 | 711 | 723 |

連結貸借対照表 推移

(百万円)

| | 2020/3期 | 2021/3期 | 2022/3期 | 2023/3期 | 2024/3期 | 2025/3期 |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 資産の部 | | | | | | |
| 流動資産 | 5,213 | 5,515 | 6,311 | 6,611 | 7,289 | 7,667 |
| 固定資産 | 1,009 | 780 | 861 | 875 | 1,036 | 1,169 |
| 資産合計 | 6,222 | 6,295 | 7,172 | 7,486 | 8,326 | 8,836 |
| 負債の部 | | | | | | |
| 流動負債 | 1,503 | 1,595 | 1,891 | 1,618 | 1,853 | 1,848 |
| 固定負債 | 173 | 175 | 190 | 195 | 221 | 227 |
| 負債合計 | 1,676 | 1,770 | 2,081 | 1,813 | 2,075 | 2,075 |
| 純資産の部 | | | | | | |
| 株主資本 | 4,531 | 4,514 | 5,068 | 5,630 | 6,203 | 6,724 |
| その他の包括利益累計額 | 13 | 10 | 22 | 42 | 47 | 36 |
| 純資産合計 | 4,545 | 4,524 | 5,090 | 5,672 | 6,250 | 6,760 |
| 負債純資産合計 | 6,222 | 6,295 | 7,172 | 7,486 | 8,326 | 8,836 |

本資料には、当社に関する業績や見通し、将来に関する計画、経営目標などに関する情報が含まれています。
これらは資料作成時点での想定に基づくものであり、これら情報が正確である保証はありません。
また開示規則により求められる場合を除き、本資料に記載の情報は予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ先

株式会社翻訳センター 経営企画室

E-mail

ir@honyakuctr.co.jp

IRサイト

<https://www.honyakuctr.com/ir/>